

研修医2年目 和田沙由里

今回、神戸大学病院初期研修の一環として一か月の地域研修でそよかぜ診療所・はるかぜ診療所に来ました。診療所がある朝来は神戸から車で1時間半ほどで来れ、近くには竹田城跡があり自然が豊かな場所です。また研修中の7月は梅雨がなかなかあけず雨が続き、暑すぎることなく過ごしやすい気候でした。私は来年からは病理診断科に進みます。病理診断科では患者から組織や細胞などを調べて病気を診断したり、亡くなった方の死因を調べるためにご遺体を解剖したりします。そうすると患者と触れ合える機会が少なくなるため、研修先は地域に密着したこのそよかぜ診療所、はるかぜ診療所を希望いたしました。

研修の中で特に印象に残っているのは訪問診療です。実際に患者の家や施設に行き、生活の中で診るので比較的にリラックスした状態の患者を診ることができます。各々疾患や障害を持ちながらもどのように最期まで生きていくかを、本人はもちろんご家族や他職種と相談しながら考えていく過程を経験しました。また診ている患者がお亡くなりになり、お看取りも経験させて頂きました。体を拭いたり着替えさせて頂くエンゼルケアにも加わりました。症状だけでなく生活環境などの背景を踏まえた人間そのものを見ることが大事という先生の言葉が印象的でした。その中では在宅医療制度についての知識も深まりました。往診と訪問診療の違いから、医療保険でできること、介護保険でできること、また身体障害者手帳の取得やそのメリットなど、知らなければいけない知識を再確認できました。また、スクリーニングの大切さも目の当たりにしました。症状のないがんやその他の疾患をいかに早期に発見できるか、治療につなげられるか、フォローしていくかをみさせて頂きました。私は頸部エコーを今回一緒に担当し、緊張感もありましたが貴重な経験でした。

診療所では地域に密着した医療を提供していて、患者一人一人に対して真摯に向き合っていました。患者に寄り添いながら信頼関係を築いていくことは一朝一夕ではできません。日々の丁寧な診療が大切なのだと短い期間ですが、体験的に教えて頂きました。地域に根差している部分として医療以外のところでは診療所隣にある道場で空手教室もされていました。私も週3、4回のペースで参加させて頂きました。熱心に指導して下さる空手の先生はもちろんのこと、真剣に空手に打ち込む子供の姿にも刺激を受けました。健康のためにも定期的な運動は続けていきたいと思いました。とても楽しく参加しました。

1か月は日々勉強になり、あっという間に過ぎていきました。

最後になりましたが、岡本秀樹先生、静子先生、黒瀬先生をはじめ、看護師の皆様、診療所に携わるすべてのスタッフの皆様にご世話になりました。丁寧なご指導や、また住み込みでしたので生活の面でも色々ご配慮して頂きました。この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。